

「第6次小樽市総合計画基本計画(案)」に対して提出された意見等の概要及び市の考え方等

- 1 意見等の提出者数 27 人
- 2 意見等の件数 39 件
- 3 上記2のうち計画等の案を修正した件数 1 件
- 4 意見等の概要及び市の考え方

	意見等の概要	市の考え方等
1	(基本計画全般) これから10年間の小樽市政の方向性をはっきりと示し、市民意識の向上を図るべき。	総合計画は、今後10年間の行政指針として市政全般にわたる基本的な方向性を示したもので、今後、市民の皆さんには、計画の内容を広く周知し、市民参加と協働によるまちづくりの推進に努めて参ります。  本計画では、現下の厳しい状況においても、本市の持つ多くの資源や財産を活用し、地域の活性化を図り、市民の皆さんが住みよいと思えるまちづくりを進めることにより、人口減少を最小限にとどめるよう努めることとしています。
2	(基本計画全般) 人口減、交付税減、税収増も期待できないのであれば、今ある資源を大切に活用すべき。	
3	(基本計画全般) 人口ジリ貧下の政策ではなく、いっそ8万人規模の都市を目指してはどうか。	
4	(成果指標関係) 成果指標の目標値を設定する根拠となる現状値が単年度の数値しか示されていないことから、現状分析の確度が不足しているのではないかと、少なくとも近5年の動静推移分析をすべき。	成果指標の現状値には、原則として平成19年度の実績値を記載しましたが、平成30年の目標値については過去10年程度の実績を勘案し設定しました。 ご意見の趣旨を踏まえ、基本計画中にその旨書き加えます。
5	(学校教育関係) 1 各教育機関(小・中・高)での学習プログラムとして、農業体験授業、食の学習 2 ボランティア活動を通じた高齢社会実習プログラム 3 清掃ボランティア活動を通じた循環資源型社会実施プログラム などを実施すべき。	現在、市内の小・中学校においては、総合的な学習の時間などを活用して、地域住民の協力による稲作体験や学校菜園における栽培活動、老人施設等への訪問や交流を行っています。 また、PTAや地域住民との協働による地域の清掃活動などのほか、市民ボランティア活動の一つである「まちをきれいにし隊」にも積極的に参加しています。 今後とも、体験学習やボランティア活動の一層の充実を図って参ります。

	意見等の概要	市の考え方等
6	(プール建設関係) プール活用により、医療・介護費用の抑制や商店街の活性化も期待できる。 第6次小樽市総合計画実現の最高・最良の施策が室内水泳プールの新設と考える。 市民が通いやすい中心部に水泳大会の開催可能な室内プールを建設願いたい。(11件)	<p>体育施設につきましては、当面、既存施設の維持補修を優先せざるを得ず、新たな施設の整備は難しい状況にあります。</p> <p>市民プールにつきましては、スポーツ以外にも介護予防や医療の面などさまざまな活用が可能なこともあり、本計画では「市民プールの建設」と明記したのですが、その建設時期につきましては、財政状況等さまざまな課題を整理したうえで判断したいと考えています。</p>
7	(プール建設関係) (上記6の意見に加え) 建設時期を明記すべき。 計画の開始と同時に建設すべき。(8件)	
8	(プール建設関係) (上記6の意見に加え) プール以外の施設(屋内テニスコート、トレッキング用遊歩道など)についても整備願いたい。(3件)	
9	(プール建設関係) 市民プールの建設は無理。現在あるプールへ助成することにより市民が利用できるようにしてはどうか。 その際には、交通の便についても配慮すべき。	
10	(プール建設関係) 高島小学校プールは代替のプールにはほど遠い。早期建設を求める署名9,500筆、陳情書850があったのは、プール建設の関心の高さを示している。 プール建設は、高齢者福祉、介護・医療や社会教育のスポーツ・文化の振興の意味からも必要である。 プールの建設を実施計画に組み入れ、早期完成を要望する。	
11	(地域医療関係) 医療は二極化の方向にいかざるを得ない。本格的医療は札幌市内の医療機関、その他はかかりつけ医での対応となる。	<p>高齢者の多い本市においては、市内で市民の皆さんが安心して医療を受けられるよう、大学病院等でしか提供困難な高度な診療を除いて地域で提供できる地域完結型の医療体制が必要で</p> <p>市立病院については、老朽化が進み、改修等での存続は困難であり、市立病院の役割を明確にして、統合新築することとしています。</p>
12	(地域医療関係) 市立病院は現状維持で補修、手直しでしのいでどうか。高度医療機器を揃えるのは無理と考える。	<p>成果指標の病床数につきましては、病院改革プランとの整合性も図り、市立病院の病床数については現在休床中の病床を除いた実稼働病床数をもとに算定しています。</p> <p>地域医療を守るためにも、現状の医療体制を維持することは必要との認識から目標値を定めたものです。</p>
13	(地域医療関係) 地域医療の施策の目標値について、「小樽市立病院改革プラン」に掲げた許可病床数の削減を踏まえたものなのか。 本計画との整合性を図り、医療体制の充実を図るべきと考える。	

	意見等の概要	市の考え方等
14	(観光関係) 「カジノ誘致」は小樽の街の品位を汚す。絶対あってはならない。 観光客の滞在型誘致のため、市民の意見を聞き、市民上げて取り組むべき。	現在、誘致に関係する団体等で検討されているカジノは、楽しい雰囲気の中で時間を過ごすエンターテインメント性を持つ複合的施設として検討されており、合法化された場合には、新たな観光資源の一つになりうるものであると考えています。 また、観光客の誘致に向けては、昨年10月2日観光都市宣言を行い、時間消費型観光の推進に向け、官民あわせて取り組むこととしています。
15	(港湾関係) 活性化策を掲げているが、フェリー航路について触れられてない。 小樽港の物流衰退は、主要フェリー航路の苫小牧港移行後に際立っている。石狩湾新港地域と連携した物流拠点としてフェリー航路復活の誘致を図るべき。 近年、フェリーを利用した観光クルージングが盛んになっており、観光波及効果も大きいと考える。	フェリー航路を活用した物流等は、小樽港にとって重要なものと考えており、今後ともその活性化に向け取り組むこととしています。
16	(環境保全関係) 風力発電、太陽光発電等、市民が参加できるエコの研究をすべき。	ご意見につきましては、今後、具体的な施策立案の際の参考とさせていただきます。 なお、粗大ごみの再生利用につきましては、他都市の事例を参考にしながら、その具体化に向けた取組を進めることとしています。
17	(環境保全関係) 粗大ゴミの再生利用について、札幌市のように早急に完成させるべき。	
18	(環境保全関係) ゴミ分別を多様化し、エコとグリーンの街づくりへ市民が参加する方法を研究すべき。	
19	(元気づくりプログラム・その他) 市街地整備の施策に掲げた「新幹線を活用したまちづくりの検討」と、観光の施策に掲げた「時間消費型観光への移行」中の「法制化を見据えたカジノの誘致」については、本市の将来を左右する2大プロジェクトと考える。 別項目とし、中・長期の推進計画を市民に示すべきではないか。	ご意見につきましては、いずれも本市にとっての重要な案件として認識しており、本計画に位置付けたところですが、現時点では、新幹線着工に向けた国の認可やカジノ合法化に向けた法整備などがされていないことから、別項目とする状況にないと判断しています。 今後、それぞれの進捗よく状況を見極めながら、取り組んで参りたいと考えています。
20	(元気づくりプログラム・その他) 「旧国鉄手宮線の整備と利活用」の提案 ボランティア組織を活用し、総合博物館所有のSLを旧手宮線に運行してはどうか。  ・整備・運行、官公庁との渉外、広報宣伝などの各活動を行うボランティアを全国公募し組織 ・保存・運転のための寄付金募集やチャリティー品の販売などで資金を全国から確保 ・草の根活動として線路の復活工事からボランティアが行い、手づくりの路線復活として全国にアピール ・踏み切りについてコスト抑制のため、運行の都度、警察とボランティアにて交通規制(パレード・行列対応)で対応 ・小樽市の出費は現状以下に抑え、乗車代金と寄付金、関係グッズの収益金でまかなうNPO方式 ・旅行会社、バス会社と提携し、バック旅行を企画して回遊性の向上と安定的・計画的な集客を図る。 ・「跡地」ではなく、「実際のSL路線」となるため宣伝効果も期待可能 ・ボランティアによる保存鉄道運行は、海外では事例が豊富。日本においても潜在的な人口は多い。 ・鉄道・旅行雑誌はじめ、テレビ・マスコミへの広報・宣伝がキー	ご意見につきましては、今後、旧国鉄手宮線の活用方策の検討に当たっての参考とさせていただきます。